

ふくい陽子線治療 NEWS

ニュース

第

11号

令和4年

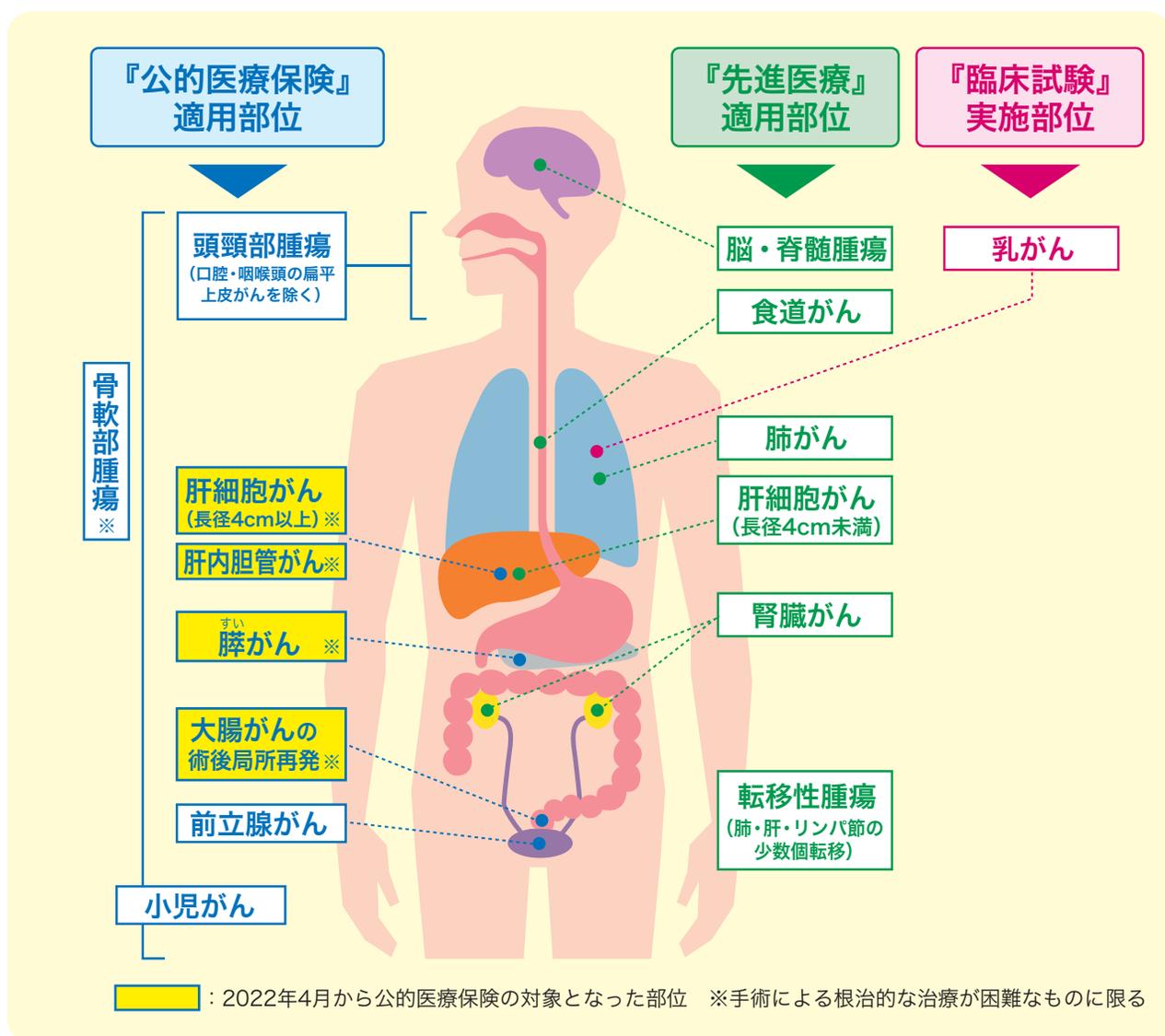
公的医療保険の対象が拡大しました!

2022年度の診療報酬改定により、陽子線がん治療の公的医療保険の適用範囲が拡大されました。

新たに対象となる疾患は、「**肝細胞がん(長径4cm以上のもの)**」「**肝内胆管がん**」「**局所進行性膵がん**」「**大腸がん(手術後の局所再発)**」の4つです。(ただし、いずれも手術による根治的な治療法が困難なものに限る)

あわせて高額療養費制度を活用することで、患者さんの費用負担は大幅に軽減され、陽子線治療をさらに受けやすくなりました。

陽子線がん治療の対象となるがん



陽子線がん治療の費用（イメージ）

■公的医療保険適用の場合

公的医療保険適用		
陽子線治療		
<ul style="list-style-type: none"> ○頭頸部腫瘍 ○骨軟部腫瘍 ○小児がん ○肝細胞がん（長径4cm以上） ○肝内胆管がん ○局所進行性膵がん ○大腸がん（手術後の局所再発） 	237万5千円 （照射回数によらず）	（診察・検査・薬代など）
○前立腺がん	160万円 （照射回数によらず）	
自己負担（1～3割）	保険給付（7～9割）	

※高額療養費制度を活用することにより、自己負担額を大幅に抑えることができます。

■先進医療の場合

先進医療		公的医療保険適用	
陽子線治療		（診察・検査・薬代など）	
先進医療適用の疾患	照射回数 ～20回		240万円
	照射回数 21回～25回		250万円
	照射回数 26回～		260万円
自己負担（全額）		自己負担（1～3割） 保険給付（7～9割）	

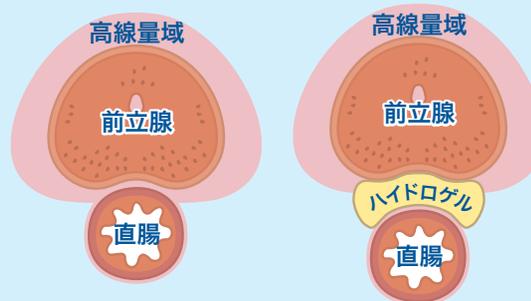
※民間保険の先進医療特約を利用することができます。

前立腺がんの陽子線治療にSpaceOARを導入しました

前立腺と直腸は隣り合っているため、前立腺がんの陽子線治療では、直腸にも陽子線が当たってしまい、直腸出血などの副作用が発生することがあります。

当院が導入した「SpaceOAR」は、前立腺と直腸との間にハイドロゲルと呼ばれる液体を注入して隙間を作ることにより、直腸に照射される陽子線を減少させる技術です。これにより、直腸への障害を減らすことが期待されます。

なお、注入したハイドロゲルは、半年から1年で自然に吸収され体外に排出されるため、取り出す必要がなく、体への影響はありません。



ふくい陽子線治療ニュース第11号（令和4年5月発行）

編集・発行／福井県立病院陽子線がん治療センター
 〒910-8526 福井県福井市四ツ井2丁目8-1（福井県立病院内）
 TEL (0776) 57-2980 FAX (0776) 57-2988
<https://fph.pref.fukui.lg.jp/yosisen/>



相談専用ダイヤル

0776-57-2981

8:30～17:00（土日祝日除く）